

## 本時の学習

### 【1時間目】

#### 1 ねらい

題名について自分なりの「疑問」を見付け、筆者が伝えようとしていることに気を付けて本文全体を読む。

#### 2 準備

指導者：掲示用カード、児童用本文プリント、学習プリント、森の写真、炭焼きの様子を収録したビデオなど

#### 3 展開

過程	学習活動	時間	学習の支援及び留意事項	評価項目
つかむ	<p>「木や森林」についての考えを出し合う。</p> <p>題名「森を育てる炭作り」にかかわる疑問を考える。</p> <p>・学習プリントに題名にかかわる疑問を記入する。</p>	<p>10</p> <p>15</p>	<p>他教科や特活等での自然や環境にかかわる活動に関連させながら、環境問題への児童の関心を「森林」に焦点化できるようにする。</p> <p>題名と森林の写真を提示し、「森」とはどんなところかを想像させる。</p> <p>題名にある「森を育てる」のは何かを考えさせ、「炭作りが森を育てる」という意味であることに気付かせる。</p> <p>炭を配り、炭に関する経験や知識を出し合わせながら、日本ではかつては燃料として、現在は脱臭剤などとして炭を使っていることをとらえさせる。</p> <p>炭作りの写真やビデオを見せ、児童の炭作りへの興味・関心を高めながら、炭の材料は、木であることに気付かせる。そこから題名にかかわる「疑問」を引き出し、「木を切る炭作りが、なぜ、森を育てることになるのか。」などと、とらえられるようにする。</p>	<p>【関心・意欲・態度】</p> <p>・自分の生活を振り返り、森と炭への関心をもって読もうとしている。</p> <p>発言、つぶやき</p>
深める	<p>全文を読み通す。</p> <p>【A】言語情報への主体的な働きかけ</p>	15	<p>この文章は、筆者が読み手に何かを伝えるために書いた文章であること、日本だけでなく外国の炭作りについても書いていることを知らせ、題名にかかわる「疑問」とその疑問を踏まえて「筆者が伝えようとしていること」に気を付けて読むという目的意識をもたせる。</p> <p>題名にかかわる疑問や筆者が伝えようとしていることという観点を示して、気が付いたことを交流させる。</p>	<p>【読む能力】</p> <p>・生活体験を振り返り、題名からの「疑問」と筆者が伝えようとしていることに関心をもって読んでいる。</p> <p>発言、つぶやき</p>
まとめる	<p>本時を振り返り、今後の学習の見通しをもつ。</p>	5	<p>この文章は、筆者が伝えたいことがあって書いた「意見文」であることを再度確認し、筆者の意見はどんなことなのか、題名に込められている筆者の意図はどんなことかなどに気を付けて、読んでいく意欲を高めさせる。</p>	

## 【2時間目】

### 1 ねらい

題名についての「疑問」(「木を切る炭作りが、なぜ、森を育てることになるのか。」)と、筆者が伝えようとしていることに気を付けて本文全体を読み、結論(筆者の意見)と結論の根拠につながる記述の概要を把握する。

### 2 準備

児童:本文プリント 学習プリント

指導者:掲示用カード、掲示用拡大本文プリントなど

### 3 展開

過程	学習活動	時間	学習の支援及び留意事項 ( :全体への支援、 :おおむね満足に達していない児童への支援)	評価項目
つかむ	前時を振り返り、本時のめあてをつかむ。	10	前時に出し合った、題名にかかわる疑問「木を切る炭作りが、なぜ、森を育てることになるのか。」を再度児童から引き出し、この文章が、その疑問の答えを説明することで、ある意見を伝えようとしている説明的な文章であることをとらえさせ、本時のめあてを確認させる。	
深める	<p>微音読しながら題名にかかわる疑問の答えや筆者が伝えようとしていることにつながる部分に線を引く。</p> <p>隣同士で、交流する。</p> <p>全体で、線を引いたところを出し合う。</p>	<p>15</p> <p>5</p> <p>10</p>	<p>形式段落に番号 ~ を付けさせる。</p> <p>題名にかかわる「疑問」を振り返らせ、「炭を作る人々が森にしていること」に気を付けて読むように促す。</p> <p>線を引いた理由を可能な範囲で説明するように促す。</p> <p>友達が引いた部分で、その理由を聞き、納得できた部分に、追加で破線を引くように促す。(納得できない部分は、無理に引く必要はないことも押さえる。)友達の気づきを共有し合うことを確認させる。</p> <p>掲示用拡大本文プリントを活用し、児童が指摘した部分を確認する。</p>	<p>【読む能力】</p> <p>・結論と、結論に直接的につながる、炭作りの人々の森への働きかけについての記述を中心に、線を引いている。</p> <p>本文プリント</p>
			<p>&lt;児童が引くと思われる部分&gt; 以下の 数字は、形式段落の番号</p> <p>木を切ることによって~日本の炭焼き技術です。昔から~少しずつすがたを消し始めました。</p> <p>こうした現状を~日本の炭焼き技術です。そこで、炭焼き用に~育てることにしました。</p> <p>こうして、村の人たちが~輸出されるまでになりました。さらに、炭作り、~増えました。</p> <p>炭作りは、森とうまく~ともに生きていくこともできるのです。</p>	
	<p><b>【A】言語情報への主体的な働きかけ</b></p>		<p>児童が主体的に教材文にかかわる意欲を大切にするために、上記の部分の外に線を引いてもここでは問題にせず、児童の読み取りが進む過程で焦点が絞られていくようにする。</p> <p>同様の意図から、上記部分に線や破線を引かない児童がいても、あえて、引くように指示はしない。</p>	
まとめる	本時を振り返るとともに今後の学習の見通しをもつ。	5	この文章は、「炭作りが、なぜ、森を育てることになるのか」を説明することで、ある意見を伝えようとしている「意見文」であることを再確認させ、次の時間は、筆者が伝えたい「意見」は何かを読み取ることを確認させる。	

### 【3時間目】

#### 1 ねらい

題名からの「疑問」に着目して筆者の意見をとらえ、本論（意見の根拠）を読むための「読みの課題」をつかむ。

#### 2 準備

児童：本文プリント、学習プリント

指導者：掲示用カード、掲示用拡大本文プリントなど

#### 3 展開

過程	学習活動	時間	学習の支援及び留意事項	評価項目
つかむ	前時を振り返り、本時のめあてをつかむ。	2	題名から、この文章は、「炭作りをすることが、なぜ、森を育てることになるのか」を説明することで、ある意見を伝えようとしていることを再確認させ、本時のねらいをつかませる。	
深める	筆者の意見をまとめている段落をさがす。 ・各自で微音読して探す。 ・隣の人と交流する。 ・全体で意見を出し合う。	10	筆者が一番伝えたいことは何かを考えて、段落を選ぶように促す。 全体で交流する場面では、12段落の前に一行空いており、一行空けてまとめとして自分の意見を提示していることに気付かせる。 ほかにも一行あいているところを見付け、 <b>1</b> <b>2</b> <b>3</b> と意味段落番号を付けさせる。 <b>3</b> 段落に筆者の意見をまとめていることから、 <b>1</b> <b>2</b> 段落では、何を述べているのかを、今までの説明的な文章の学習を振り返りながら話し合わせ、 <b>3</b> 段落の意見の根拠を述べていることに気付かせる。	【読む能力】 ・筆者の意見をまとめた一文とそ の中の中心とな る三つの語句を 選び、「読みの課 題」につなげて いる。
	結論の段落の三つの文の中から、筆者の意見をまとめている一文を選ぶ。	10	<b>3</b> 段落の三つの文を箇条書きにして提示し、比較しやすいようにする。 選んだ理由を交流しながら、一文目、二文目は、森と炭作りに関する説明をまとめ、三文目は「自然」と「人間」という言葉で、「森」と「炭作り」を広い視点でまとめていることに気付かせる。	本文プリント、 学習プリント
	選んだ一文を「 <b>      </b> は、 ～すべきである。」と書き換える。	10	三文目を踏まえて「 <b>      </b> 」には、何が入るのかを考えさせ、「～する」のは、人間であることをとらえさせる。	
	筆者の意見から、「読みの課題」をつかむ。 ・意見の文の中心となる語句（記述）を選び、その意味を問う文に直す。	10	筆者の意見「人間は、自然からめぐみを受けるばかりでなく、人間のほうから自然にはたきかけ、自然とともに生きていくべきだ。」の中の何が分かれば、筆者の意見を納得できるのかを考えて、中心となる三つの語句（記述）を選び、その語句（記述）を「読みの課題」とさせる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「自然からのめぐみとはどんなことか」</p> <p>「人間のほうから自然にはたらきかけるとはどんなことか」</p> <p>「自然とともに生きていくとはどんなことか」</p> </div>	
まとめ	本時を振り返るとともに次の時の学習の見通しをもつ。	3	次の時間から、「読みの課題に沿って、筆者の意見の根拠を読み取る。」ことをとらえさせる。今の学習の流れが、「意見文を読み進める方法」であることをとらえさせる。	

## 【4時間目】

### 1 ねらい

三つの「読みの課題」に沿って筆者の意見の論旨につながると予想される事実（具体的な記述）をとらえる。

### 2 準備

児童：本文プリント、学習プリント

指導者：掲示用カード、3色（黄、青、赤）の付せん紙、学習プリント

チェックプリント（三つの読みの課題に沿って取り出す事実の確認用プリント）など

### 3 展開

過程	学習活動	時間	学習の支援及び留意事項 ( : 全体への支援、 : おおむね満足に達していない児童への支援)	評価項目
つかむ	前時を振り返り、本時のめあてをつかむ。	5	「読みの課題」の答えや答えにつながることは、「意見」ではなく「事実」であることを押さえさせる。 その「事実」を短い言葉や文にして黄色の付せん紙に書き出していくことを確認させる。	三つの「読みの課題」 「自然からのめぐみとはどんなことか」 「人間のほうから自然にはたらきかけるとはどんなことか」 「自然とともに生きていくとはどんなことか」 【読む能力】 ・「読みの課題」に直接的につながる炭作りにかかわる記述を中心に取り出している。 学習プリント
深める	三つの「読みの課題」の答えや答えにつながる「事実」を取り出す。 ・一つ目の課題の答えになる事実を全体で話し合いながら取り出す。 ・二つ目、三つ目の課題を自力で取り出す。 ・友達と交流する。	5 10 10	色の付せん紙に書き出し、学習プリントにはらせる。 木を切る 切りかぶからは新しい芽が育つ 森がわか返る 適度に枝を切る 下草をかる 落ち葉を集る 成長を助ける 木々や芽に対する光の当たりぐあいを調節する など 机間巡視をしながら、書き方が適切なものを紹介する。 自然＝森であることを確認し、「人間から自然にはたらきかける」とは、人々が森とかかわっていることであることに気付かせ、そのことをまとめているのは、 <b>1</b> 段落では、段落であることに気付かせる。 <b>2</b> では、トホ＝イリル村の人々が、炭作りを始める前に森にしてきたことも考えるように促す。 自力解決の時間を10分程度取った後、座席を離れて自由に友達と意見交流するよう促す。	
	【B】言語情報の正確な把握 【C】言語情報と生活体験との関連付け 【D】既有的知識や体験に基づく言語情報の評価	10	交流を通して付け足したい事実は青の付せん紙に、本文にない自分で気付いたこと、考えたことは赤の付せん紙に書くように促す。 チェックプリントの中であって自分にはないもので、納得のいくものは、青の付せん紙に書いてはり付け、修正は赤ペンでするように促す。	
	本時を振り返るとともに、次の学習の見通しをもつ。		児童が挙げた事実の中で、挙げた理由を述べやすい付せん紙を取り上げ、なぜ、取り出したのかを全体に投げかけ、同様の理由であげた事実はないかを投げかける。取り出した事実には、共通の要素があるという考え方に気付かせ、次の時間の方向性に触れる。	

## 【5時間目】

### 1 ねらい

筆者の意見の根拠につながると予想される記述を、生活体験や学習経験を振り返りながら類別する。

### 2 準備

児童：本文プリント、学習プリント 3色付せん紙

指導者：掲示用拡大本文プリント、掲示用カードなど

### 3 展開

過程	学習活動	時間	学習の支援及び留意事項 ( :全体への支援、 :おおむね満足に達していない児童への支援)	評価項目
つかむ	前時を振り返り、本時のめあてをつかむ。	5	本時の学習は、前の時間に書き出した事実(付せん紙)を筆者がどのようにつなげて、読み手に自分の意見を納得してもらえるように書いているのかを読み取っていくことをとらえさせる。	
深める	<p>三つの「読みの課題」に沿って取り出した事実(付せん紙)をグループに分けてタイトルを付け、自分の考えを書く。</p> <p>・全体で確かめ合いながら一つの課題「自然のめぐみ」に対応する事実をグループに分けてタイトルを付け、自分の考えを書き加える。</p> <p>・二つ目三つ目の課題に対応する事実をグループに分ける。</p> <p>(1) 自力で分ける。 (2) 自由交流する。 (3) 友達のグループ分けの意図のよさを見付ける。</p>	<p>10</p> <p>25</p>	<p>学習プリント で、付せん紙を移動させながら考えさせる。</p> <p>グループ分けをする中で、本文から新たな事実を付け加えるときには、黄色付せん紙に書き足し、自分の考えを加えたいときには、赤付せん紙に書くことを確認する。</p> <p>本文の拡大コピーを使い、付せん紙に書き出した事実(記述)が本文のどこにあるか、線を引きながら確認させる。</p> <p>児童が主体的に活動することを大切に、児童が分けたグループを尊重する。</p> <p>手つかずの児童には、付せん紙に書き出した事実を、本文プリントの中に線を引いて確認し、本文上の位置からまとまりについて考えるように促す。</p> <p>自力解決の時間を10分程度取った後、自由交流の時間とする。</p> <p>無計画な焼畑は、不適切な働きかけであることを把握していると予想されるグループ分けをしている児童の座席にほかの児童を集め、グループ分けの意図を説明させながら、焼畑と炭作りや植林の自然への影響を比較させ、人間の自然への働きかけには、適切な働きかと不適切な働きかけがあることに気付かせる。</p> <p>友達のまとめや説明から、気付いたことを付け足したり修正したりするように促す。</p>	<p>【読む能力】</p> <p>・記述と記述の間の共通項見付けてグループ分けをし、グループ分けの意図を、タイトルとして表している。</p> <p>学習プリント</p>
まとめる	本時を振り返るとともに、次の学習の見通しをもつ。	5	次の時間には、付せん紙に書き出した事実の順序やつながりを考えていくことで、筆者の意見とその根拠に対する自分意見の付け足しをすることをつかませる。	

【6時間目】

1 ねらい

イリル村の人々が、焼畑の過ちに気付き、森の環境を守りながら続けることができる日本の炭作りを始めたことを踏まえ、人間は、自然とどのようにかかわっていけばよいのかを考える。

2 準備

児童：本文プリント、学習プリント

指導者：掲示用拡大本文プリント、掲示用カードなど

3 展開

過程	学習活動	時間	学習の支援及び留意事項 ( : 全体への支援、 : おおむね満足に達していない児童への支援)	評価項目
つかむ	前時を振り返り、本時のめあてをつかむ。	10	前時の焼畑の過ちに気付いた児童の説明と、その説明の根拠になった本文の記述を振り返りながら、焼畑の目的、焼畑の弊害、炭作りと植林の目的についての事実関係を確認させる。  焼畑と植林を比較させ、森（自然）への働きかけには、適切な働きかけと不適切な働きかけがあることをとらえさせる。	
深める	二つの「読みの課題」の答えを、前時までに取り出した事実（記述）と自分の経験を照らし合わせながらまとめる。  (1)「自然からのめぐみとはどんなことか」の答えを学習プリントにまとめる。  (2)「人間のほうから自然にはたらきかけるとはどんなことか」の答えをまとめる。  ・自力でまとめる ・自由交流（座席移動も可）をし、自分のまとめに修正を加える。 ・全体で交流する。	10	自力解決の後、座席の近い友達と交流させ、全体交流する。  本文から事実として取り出しためぐみや、自分で気付いためぐみなどを考え合わせてまとめるように促す。（学習プリント）  自力で難しい場合は、以下のモデルを提示し、参考にさせる。  「自然からのめぐみとは、（ ）（ ）（ ）などです。  「自然からのめぐみとは、（ ）（ ）（ ）などで、< >です。  次の文を一つの解答例として提示する。  「自然からのめぐみとは、炭やまきのような木からつくるものや下草をかり、落ち葉を集めて作った田畑に使う肥料や森を焼いてできたはいのような農作物の栄養になるものなどがあります。」  5分程度経過した時点で、児童の書いた様子を把握し、交流させる。  自分の言葉で「自然とともに生きていく」につながる書き方をしている児童のまとめを紹介し、人間が自然に働きかける理由（生きるための食料や道具の材料を得る）を、本文の記述や自分たちの生活を振り返りながらつかませ、人間は、自然からめぐみがなければ生きていけないという考え方を児童から引き出すようにようにする。  「人間のほうから自然にはたらきかけるとは、炭作りの人たちが、木を切るときに必要以上に切らないようにしたり、切りかぶから出た芽を大切に育てたりするように、自然からのめぐみをもらうだけでなく、自然をまもるはたらきをすることです。」	【読む能力】 ・本文から取り出した記述を活用しながら「自然からのめぐみとはどんなことか」「人間のほうから自然にはたらきかけるとはどんなことか」を自分なりの言葉でまとめることで、筆者の考え方の読み取りを深めている。  学習プリント
まとめる	本時を振り返るとともに、次の学習の見通しをもつ。	5	次の時間は、今日まとめた二つの課題の答えを基に、「自然とともに生きるとはどんなことか」についての自分の考えをまとめていくことをつかませる。	【B】言語情報の正確な把握 【C】言語情報と生活体験との関連付け 【D】既有的知識や体験に基づく言語情報の評価

## 【7時間目】

### 1 ねらい

人間は自然からのめぐみを受けることで生きていくことができることを踏まえ、人間はどのように生きていったらよいのかを考える。

### 2 準備

児童：本文プリント、学習プリント 3色付せん紙

指導者：掲示用拡大本文プリント、掲示用カードなど

### 3 展開

過程	学習活動	時間	学習の支援及び留意事項 ( : 全体への支援、 : おおむね満足に達していない児童への支援)	評価項目
つかむ	前時を振り返り、本時のめあてをつかむ。	2	前時にまとめた「自然からのめぐみ」とは何か、「人間のほうから自然にはたらきかける」とは何かについての自分の考えを基に、本時は、「自然とともに生きていく」とはどんなことをまとめ、自分たちは何ができるのか、どんなことをしたいのかを考えていくことを確認させる。	
深める	「人間のほうから自然にはたらきかける」とは、どういうことを、前時での自分たちのまとめと本文を対応させ、自分たちの生活と関連付けながらつかむ。  「自然とともに生きる」とはどんなことを、班(3~4人)でまとめる。全体交流する。	10	「自然からのめぐみ」にはどんなものがあるかを、本文からと生活の振り返りからと両方を引き出す。  「人間のほうから自然にはたらきかけるとはどんなことか」の前時の児童のまとめを提示しながら、人間は何のために「自然にはたらきかけるのか」を問い、人間が生きていくには自然からのめぐみが不可欠であるという解釈を引き出す。  炭作りと焼畑の働きかけ方と結果を比較させ、自然への働きかけには、適切な働きかけと不適切な働きかけがあるという解釈を引き出す。  日本の炭作りとトホ=イリル村の炭作りを比較させ、違いはあるものの森を育てながら行うという点で共通するという解釈を引き出す。	【読む能力】 ・本文から取り出した記述を活用しながら「自然とともに生きる」とはどんなことか」を自分なりの言葉でまとめることで、筆者の考え方の読み取りを深めている。  班のまとめ
		15	今まで自然に対し、どんな働きかけをしてきたか(ISOの環境活動や巣箱かけなどの愛鳥活動など)を思い出させ、今後も頑張っていきたいこともまとめに入れることができることに気付かせる。	
		15	全ての班に発表させる。班としての考え方に根拠が入っていない班には、その理由を説明するように促す。	
		<b>【B】言語情報の正確な把握</b> <b>【C】言語情報と生活体験との関連付け</b> <b>【D】既有的知識や体験に基づく言語情報の評価</b>		
まとめる	本時を振り返るとともに、次の学習の見通しをもつ。	3	次の時間は、今日までにまとめた三つのめあてのまとめを基に、「人間と自然とのかわり」についての自分の考えをまとめていくことをつかませる。	

【8時間目】

1 ねらい

「人間は自然とともに生きていくべきである」という筆者の考え方を基に「人間と自然とのかかわり」についての自分なりの考えをまとめる。

2 準備

児童：本文プリント、学習プリント

指導者：掲示用カード、学習プリント など

3 展開

過程	学習活動	時間	学習の支援及び留意事項 ( :全体への支援、 :おおむね満足に達していない児童への支援)	評価項目
つかむ	前時を振り返りながら本時のめあてをつかむ。	3	前時のまとめを振り返り、「自然とともに生きる」とは、人間が一方向的に自然から「めぐみ」をもらうのではなく、自然を守り育てることで、継続的に自然から「めぐみ」を受けながら生きていくことができるという考えを再確認する。	
深める	生活を振り返り、「自然とともに生きる」ために自分たちが今までに行ってきたことを出し合う。 「自然とともに生きる」ことについての自分の考えを学習プリントにまとめる。	10  20	筆者は、炭作りの事例を基に、自然と人間とのかかわり方についての意見を述べていることを再確認させ、「森林伐採による砂漠化」「酸性雨による樹木の立ち枯れ」などのメカニズムについての情報を与え、日常的な環境活動の意義や役割について考えさせる。書くことの助けとなるように以下の観点を参考に提示し、自由に書かせることで、各々のまとめができるようにする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自然とともに生きる」とはどんなことかの自分の考え</li> <li>・今までしてきたことの中で、「自然とともに生きる」ためのことだと考えられること</li> <li>・これからも、続けていきたい「自然とともに生きる」ためのこと。</li> <li>・これから、初めてみたい「自然とともに生きる」ためのこと。</li> <li>・みんなに投げかけたい「自然とともに生きる」ためのこと。</li> </ul> </div> 書き始めることができない児童には、以下の書き方を提示する。	【読む能力】 ・自分の生活体験や学習経験を振り返りながら筆者が提示した課題「自然と人間のかかわり方」に対する自分なりの考えを自分の言葉でまとめている。 学習プリント
	<b>【E】新たな思考の生み出しと言語化</b>		「自然とともに生きる」とは、( )ということだと思います。わたしは、今まで、( )などをしてきました。これは、「自然とともに生きる」ことにつながると思います。なぜかという、( )だからです。これからも、( )を続けていきたいと思っています。また、( )などもしていきたいと考えています。	
	友達のまとめを聞く。	5	自分なりの根拠とともに、自然とともに生きていくことの大切さとその考え方を今後の生活にどのように生きていくかを述べている児童の作品を1～2人発表させ、そのまとめの良さを称賛する。	
まとめる	本時と教材全体を通じた学習を振り返り、今後学習への意欲をもつ。	7	本教材の学習の方法を振り返り、説明的な文章の学習の方法として、題名や問題提起文に着目して読み進め、筆者の意見をつかんだ上で、読みの課題に沿って本論を読むという方法は、自分たちの「読書」にも生かすことができることつかませ、今後の説明的な文章の学習や読書、意見文を書く学習への意欲が高まるようにする。	